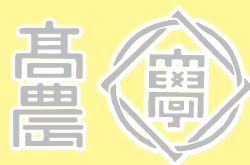


鳥取大学農学部

学生会会報



第 31 号

2010. 2. 1



世界砂像 フェスティバル

鳥取砂丘 オアシス広場【鳥取市福部町】にて開催

主な目次

会長代行あいさつ 2	支部だより12
農学部長あいさつ 2	クラス会だより14
役員会報告 3	西尾会長を偲んで15
コストピックス 5	在学生の皆様へ16
ニューフェイス11	



あいさつ
農学部同窓会会長代行
朝倉 晋

同窓会の皆様には、益々御壮健で各界に御活躍の事とお慶び申し上げます。

去る8月に西尾迢富会長の急な御逝去により、10月2日の役員会で、卒業年次が副会長の中で一番古いと言う理由で、平成22年5月の総会まで会長代行を仰せつかりました、昭和29年林学科卒業の朝倉晋でございます。

輝かしい歴史と誇り高い伝統のある、農学部同窓会の会長代行としては、大変非才な者ではありますが総会で新会長が誕生するまでの間、皆様のご期待に沿えるよう、力一杯努力して参りたいと心を新たにしているところでございます。どうぞ、よろしくお願ひ申し上げます。

さて、西尾会長が会報第30号で述べておられましたが、平成13年農学部創立80周年記念事業として、旧高農講堂玄関を農学部旧缶詰工場前に移設致しました。この場所は当時旧缶詰工場を博物館にする構想があったためでありましたが、その後この計画は頓挫し、今は廃屋となった旧缶詰工場の前に老朽化

した、旧講堂の玄関が雑草の中に取り残されています。また、高農初代校長の山田玄太郎先生の胸像が、日陰の中に樹木に隠れ、何処にあるのか見分けがつかない現状にあり、農学部で協議の結果、農学部中庭に修理移転することとして平成20年4月、農学部長より同窓会に対し移転資金支援の要請があったところでございます。故西尾会長は、現在三洋電機の所有となっております、旧高農校舎について、かなり老朽化が進んでおり、更にパナソニックとの合併が決定している事もあり、取り壊される事の懸念から現在の農学部を含めた、旧高農の全体像を記録する映像(DVD)を残す事を計画されておりました。

従って幹事会でこの両計画を引き継ぐ事とし、役員会で修理移転費用及び旧高農校舎のDVD作製費を同窓会の現在の予算状況を勘案しながら計画どおり進める事と決定致しました。

農学部も法人化後、組織を改変され新たな教育目標を掲げ、地域の特性を活かした研究を進めておられます。われら同窓生は側面的に支援しながら、同窓会の発展を図るべきと考えております。同窓生皆様のご協力を切に願ひする次第でございます。

終りになりましたが、皆様の御健勝と御活躍をお祈りすると共に、上記2件の役員会の決定をご報告し就任のごあいさつと致します。



農学部長あいさつ
農学部長
中島 廣光

昨年8月、同窓会長の西尾迢富氏がご逝去されました。約5年間、同窓会長をお務めいただき同窓会の発展にご尽力いただきました。こころよりご冥福をお祈りいたします。

鳥取では冬を迎えても新型インフルエンザの流行はとどまることを知らず、昨年は附属をはじめ色々な小中学校等で学級閉鎖がございました。大学でも獣医学科の3年次が3日間の学級閉鎖となりました。このインフルエンザの流行で大学の入試も大きな影響を受けております。生物資源環境学科ではA

0入試をはじめ5種類の入試を、また、獣医学科でも、3種類の選抜試験を行っています。農学研究科修士課程の選抜試験も推薦入試、一般入試合わせて4種類あり、農学部の教職員は一年を通して入学試験に追まわられています。今年度は文科省や国大協からそれぞれの入試で受験生に新型インフルエンザ罹病者が出た場合は出来る限り追試をやるようにという指示もあり、遣り繰りが難しい入試の日程にさらに追試の日程が加わり、教職員は大忙しです。

さて昨年8月2日にオープンキャンパスが行われ、農学部だけで生徒、保護者合わせて804人の参加者がありました。一昨年は705名の参加者でしたので100名ほど増えたことになり、4学部の中で一番人気でした。環境問題への関心の高まりもあって

農学部人気は衰えを知りません。

獣医学科では獣医学教育の充実のために、ここ数年教育改革に取り組んできております。そんな中で平成21年度「大学教育充実のための戦略的連携支援プログラム」に鳥取大学の「獣医・動物医科学系教育コンソーシアムによる社会の安全・安心に貢献する人材の育成」が採択され、岐阜大学、京都産業大学との教育連携が今年の4月から本格的に始まります。それぞれの大学の獣医・動物医科学教育の特徴を持ち寄って、学生にとってよりよい獣医学教育にしようという新しい試みです。

また、昨年4月には農学研究科修士課程を改組しました。今回の改組の目的は、大学院教育の実質化です。これまで研究主体であった修士課程の教育を、授業もきちんと時間割通りにやることで、授業

と研究の両方による教育に大きく変えることになりました。ネイティブスピーカーによる「コミュニケーション英語」あるいは「プレゼンテーション演習」「科学・技術者倫理」などの授業を必修にしました。

国立大学が法人化されて最初の6年間の第1期がこの3月で終わります。この4月から第2期6年間が始まります。昨年9月の総選挙で政権が変わり、政府の国立大学法人に対する方針がハッキリしないまま第2期を迎えようとしております。このように変化の多い不透明な時代にあっても、鳥取大学農学部は教職員一丸となって教育、研究、社会貢献のそれぞれに、地に足をつけてしっかりと取り組んでいきたいと思っております。今後も同窓会の皆様のかわらぬご支援をよろしくお願いいたします。

役員会報告

総会開催年の中間年に当たる今年は、農学部同窓会役員会が平成21年8月7日(金)の午後6時より、鳥取市にある鳥取厚生年金会館で、27名の同窓役員が出席して開催されました。報告および協議事項は、以下の通りです。

1. 平成20・21年度中間事業報告が学内幹事によって行われ、質疑応答の後、全会一致で承認されました。

(1) 定期総会開催(平成20年5月10日)

(2) 名簿発刊(平成20年7月)

(2) 「同窓会会報」第30号の発行
(平成21年2月1日)

(3) 支部総会の開催

北海道支部 (H20・6)

熊本県支部 (H20・6)

滋賀県支部 (H20・6)

鳥取中部支部 (H20・7)

山口県支部 (H20・7)

福岡県支部 (H20・7)

岡山県支部 (H20・8)

香川県支部 (H20・9)

関東支部 (H20・9)

沖縄県支部 (H20・9)

愛知県支部 (H20・10)

島根県支部 (H20・11)

宮城県支部 (H20・11)

富山県支部 (H20・11)

静岡県支部 (H21・1)

(4) クラス会の開催

C 昭和32年卒 V 昭和32年卒

V 昭和36年卒 V 昭和43年卒

V 昭和45年卒 A 昭和45年卒

V 昭和25年卒 V 昭和42年卒

B 昭和37年卒 B 昭和40年卒

V 昭和40年卒 C 昭和20年卒

(5) 卒業祝賀会援助

(平成21年3月18日開催)

(6) 慶弔時の祝電・弔電の発信(合計10件)

(7) 卒業式、新入生への記念品贈呈

2. 平成20・21年度中間会計報告が学内幹事からあり、審議の結果、全会一致で承認されました。

平成20・21年度中間会計報告

一般会計

平成21年6月31日

収入の部

(円)

科 目	予算額	収入済額	差引残額	備 考
前年度繰越金	2,077,909	2,077,909	0	
入会金	2,200,000	2,350,000	150,000	平成20・21年入学
会費	25,300,000	28,227,200	2,927,200	{ 終 身 2,660,000(196件) 一 般 4,417,200(438件) 新入生 21,150,000(495件)
預金利息	12,259	2,581	9,678	
雑収入	409,832	4 09,980	148	
合 計	30,000,000	33,067,670	3,067,670	

支出の部

(円)

科 目	予算額	支出済額	差引残額	備 考
事務費	600,000	82,917	517,083	事務用品、コピー代等
通信運搬費	600,000	367,592	232,408	電話料、郵送料等
会議費	700,000	249,834	450,166	幹事会、役員会
旅費	2,500,000	1,189,820	1,310,180	支部総会出席旅費
支部援助金	1,200,000	810,000	390,000	15支部、12クラス会
賃金	6,000,000	3,116,000	2,884,000	賃金、事務謝金
会報発行費	3,500,000	2,058,003	1,441,997	会報第30号
慶弔費	100,000	9,961	90,039	祝・弔電
卒業祝賀会	1,400,000	700,000	700,000	平成21年3月
総会費	600,000	470,370	129,630	平成20年5月10日
学科コース援助金	800,000	300,000	500,000	8コース(@100,000)
備品費	100,000	415,170	315,170	コピー機
広報記録費	700,000	617,815	82,185	卒業生、新入生記念品
名簿代	1,000,000	678,840	321,160	新入生分買取
退職積立金	100,000	50,000	50,000	平成20年度
会費	0	380,000	380,000	退学者、返金者
終身会費積立金	10,000,000	0	10,000,000	
予備費	100,000	0	100,000	
合 計	30,000,000	11,496,322	18,503,678	

収入額 33,067,670 円 - 支出額 11,496,322 円 = 21,571,348 円

基本財産

(円)

科 目	予算額	収入済額	備 考
前年度繰越金	12,303,027	12,303,027	
預金利息	6,973	8,680	定期預金利息
合 計	12,310,000	12,430,360	

退職積立金

(円)

科 目	予算額	収入済額	備 考
前年度繰越金	706,393	706,393	平成6年度より
預金利息	1,607	1,700	定期預金利息
一般会計より	100,000	50,000	
合 計	808,000	758,093	

修身会費積立金

(円)

科 目	予算額	収入済額	備 考
前年度繰越金	47,023,898	47,023,898	平成12年度より
預金利息	76,102	124,444	定期預金利息
一般会計より	10,000,000	0	
合 計	57,100,000	47,148,342	

3. 鳥取高農玄関の修復および移転等について

学内幹事より、傷みの激しい鳥取高農講堂玄関を修復のうえ、山田玄太郎初代校長先生の胸像とともに農学部中庭に移転整備する計画案について説明が行われましたが、移転場所等について慎重な検討を求める意見が多く出され、審議の結果、幹事のほうで検討して、再度提案することになりました。

4. 鳥取高農DVD製作について

学内幹事より、旧鳥取高農校舎・吉方キャパスを中心とした記録映像を撮影してDVD化する案の説明が行われましたが、これについても作成経費等の点で、慎重な検討を求める意見が多く出されたため、幹事のほうで検討して、再度提案することになりました。

5. その他

作野委員（F昭和37年卒）より、林学同窓会の活動を中止すること、および林学同窓会の残金を農学部同窓会に移管したい旨の提案があり、承認されました。

役員会は予定の時間を大幅に超えて行われました。なお、会議終了後は、懇親会を開催しました。

平成21年10月2日（金）18時から、ホープスターとっとりで、再度役員会を開催しました。議事内容はつぎの通りです。

1. 西尾迢富会長への黙禱

西尾迢富会長が平成21年8月18日午前5時にご逝去されたのを受けて、まず参加者全員で黙禱を行いました。

2. 会長代行について

西尾前会長のご逝去を受けて、次回総会までの期間、朝倉 晋副会長（F昭和29年卒）を会長代行に選出しました。

3. 鳥取高農玄関の修復および移転等について

現学内幹事および前期学内幹事より、鳥取高農玄関の修復および移転等の案について、前回よりも詳細な説明が行われ、審議した結果、前回提示された案が承認されました。この結果、鳥取高農講堂玄関を修復のうえ、山田玄太郎先生の胸像とともに農学部中庭に移転整備することになりました。

4. 鳥取高農DVD製作について

現学内幹事より、鳥取高農DVD製作元案について、前回よりも詳細な説明が行われ、それに引き続き審議の結果、提案通り、旧鳥取高農校舎・吉方キャパスを中心とした記録映像を撮影してDVD化することが承認されました。

なお、役員会終了後は、前回と同様、懇親会を開催して、旧交を温めました。

（能美 誠・B昭55年卒）

コーストピックス

生物生産学

コースの教育目的は人間の生存のために不可欠な農業生産の持続を目指して、それに関わる基礎的な知識・技術を習得し、食料生産、遺伝育種、園芸などの生産、利用、開発と、病虫害防除などの植物保護を担う専門家を、技術者を育成することであり、改組された大学院修士課程では、「フィールド生産科学専攻生物生産科学コース」に繋がっています。

本コースでの教育研究に当たられている先生方の

近況をご報告いたします。長年連合農学研究科長を務められた尾谷浩先生（植物病学 A昭45年卒）は21年3月末に任期が終了し、4月からは教育研究に専念されています。田村文男先生（果樹園芸学 A昭57年卒）は田邊賢二先生（A昭43年卒）の定年退官にともないフィールドサイエンスセンターから生物資源環境学科に配置換えになり、農学研究科副研究科長に就任され、教育研究、農学研究科運営と八面六臂の活躍をされています。山口武視先生（作物管理学 A昭58年卒）には4月から教務担当副学部長として学部運営に忙しい日々を過しています。山名伸樹先生（生物生産機械学 E昭46年卒）にはフィールドサイエンスセンター長として、児玉基一

朗先生(植物病理学)にはコース主任として運営にご尽力いただいています。板井章浩先生(分子園芸学)、富田因則先生(分子遺伝学)はそれぞれナシ、イネ・ムギに関する分子遺伝学レベルでの研究を、中秀司先生(昆虫制御学)は総合的病害虫駆除に関する研究を、とそれぞれ打ち込んでおられます。また、10月1日付でフィールドサイエンスセンターに着任された近藤謙介先生(園芸生産学 N平10年卒)は農場実習を中心に学生の指導に当たっています。中田 昇(栽培技術学 A昭49年卒)は大学と幼稚園の二重生活を続けています。最後になりましたが、保育園から中学校まで校庭の芝生化における「鳥取方式」を開発された中野淳一先生(作物土地利用学)は残念ながら平成22年3月末に定年を迎えられます。

本コースでは教員と学生の親睦団体として、農学科、生物生産学講座のオリザ会を継承しています。末筆ではございますが同窓の皆様の益々のご健勝とご発展をお祈り申し上げますとともにご支援をお願いいたします。

(中田 昇・A昭49年卒)

植物菌類資源科学

植物菌類資源科学コースの近況をご報告いたします。本コースも改組後はや5年目を迎え、来春には2回目の卒業生を送り出します。教員に異動などによる変更はなく、植物を専門とする田中浄教授、辻本壽教授、田中裕之准教授(A平8年修了)、上中弘典准教授、岡真理子講師の5名と菌類・細菌を専門とする會見忠則教授、岩瀬剛二教授、前川二太郎教授(A昭53年卒)、霜村典宏准教授(A昭62年卒)、須原弘登講師、松本晃幸(筆者)の6名で組織しています。そして、現在、その全員が文部科学省の実施するグローバルCOEプログラム、「乾燥地科学拠点の世界展開」と「持続性社会構築に向けた菌類きこの資源活用」のメンバーとして教育研究活動に励んでいます。とくに本プログラムは、世界をリードする創造的人材育成と国際的な教育研究拠点の形成が大きな目標となっているため、ほとんどのメンバーがシリア、エジプト、中国、タイ、モンゴル、メキシコなどへ出かけ活動しています。一方、

新しくなった大学院教育では、修士課程より外国語やプレゼンテーション力を高めるための講義が組み込まれ、将来国際的な場でも活躍できる人材の輩出が期待されています。

今年度4年生37名の進路状況は、昨年度に引き続き半数近くが修士課程への進学を決め、就職についてもほぼ内定を得ており、昨今の厳しい経済情勢の中でもよくがんばっています。ただ、就職戦線は依然として買手市場の情勢が続いており、ひとつの内定を得るために何回にもわたる試験を経る必要があります。学生は相当のエネルギーを使っています。どうか今後とも同窓生皆様の温かいご支援をよろしくお願い申し上げます。

(松本晃幸・C昭52年卒)

生命圏環境化学

本コースの教育目的は人間を含む生物の生命現象とそれを支える自然環境を理解し、食と環境の問題に対処できる人材の育成です。平成21年3月には最初の卒業生22名を送り出しました。現在、4年生38名、3年生30名、2年生35名が本コースに所属しています。年度当初に教員の異動があり、作野えみ先生(N平10年卒)が退職され、石原亨先生が京都大学から着任されました。現在、9名の陣容で教育・研究に取り組んでいます。なお、本コースは平成21年4月からは名称が変更となり「生命・食機能科学コース」となりました。

生命機能化学分野	有馬二郎	講師
天然物化学分野	石原 亨	准教授
有機化学分野	一柳 剛	准教授
生物有機化学分野	河野 強	教授
環境微生物化学分野	中島廣光	教授
微生物工学分野	森 信寛	教授
栄養科学分野	藪田行哲	助教
生物化学分野	山崎良平	教授
食品科学分野	渡辺文雄	教授

なお、中島先生は学部長として、河野先生は入試委員長として、筆者は就職指導委員長として教育・研究以外に学部の管理・運営面でも多忙な日々を過ごしています。

一昨年秋からの世界的な経済危機により今年度卒

業生の就職戦線は非常に厳しい状況でありましたが、幸い本コースでは就職希望者のほぼ全員が内定しています。今後とも同窓会の皆様にはご支援とご協力をよろしくお願い致します。

(コース主任 森 信寛)

環境共生科学

同窓会員の皆さま、お元気でしょうか。平成17年に環境共生科学コースの新体制が発足してから、すでに平成20年度に第1回の卒業生を送り出しました。本コースは環境資源としての水・土・緑に関する専門分野の教育を主眼としており、森林環境と田園環境を網羅する教育分野です。歴史的背景には、林学系（森林科学系）および農業工学系（生存環境学系）の旧学科、講座があり、学部で最も大きな所帯を持つコースです。平成21年3月をもって退職された田熊勝利教授の後任に、乾燥地研究センター研究員であった齊藤忠臣氏が講師として赴任され、現在も14教育研究分野、14教員で教育を行っています。齊藤講師は、中国乾燥地の土壌劣化や水土保持に造詣が深く、コース発展の大きな新戦力となりました。各専門分野と教員名は以下のとおりです。

(生存環境学系)

基盤造構学（服部九二雄教授）、水利用学（北村義信教授）、水土生態系管理学（猪迫耕二准教授）、水利施設機能学（緒方英彦准教授）、農林制御工学（三竿善明准教授）、水圏環境評価学（清水克之講師）、地圏環境保全学（齊藤忠臣講師）、以上7分野7名。

(森林科学系)

森林生態系管理学（佐野淳之教授）、景観生態学（長澤良太教授）、生態工学（日置佳之教授）、環境木材科学（古川郁夫教授）、造林学（山本福壽教授・F昭49年卒）、森林利用システム学（市原恒一准教授）、緑地防災学（芳賀弘和准教授）、以上7分野7名。

(山本福壽・F昭49年卒)

フードシステム科学

同窓生の皆さん、お元気でしょうか。フードシステム科学コースは8名の教員が教育、研究、地域貢

献、学内の管理運営等の仕事に当たっています。

まず、残念なお話から始めることにします。一昨年6月には、本学名誉教授の和泉庫四郎先生が、また昨年8月には、本学名誉教授の今井鑄蔵先生がご逝去されました。両先生は、農学科および農業経営学科、そして農林総合科学科の経営管理学講座と情報科学講座で、それぞれ永年にわたって教育・研究に従事してこられました。今井先生は、本学を定年退職後、徳島文理大学でも教鞭をとられました。ここに、和泉先生と今井先生のこれまでのご功績を称えますとともに、ご冥福を心より祈念する次第です。一方、小林先生は現在も副学長として、情報・IT対応、評価等の仕事で多用な毎日を送っておられます。また、古塚先生は今年度より生物資源環境学科長を担当されており、やはり忙しい毎日です。他の教員も、それぞれ元気に活躍しています。なお、今年3月には、フードシステム科学コースの学生がはじめて卒業しました。さまざまな分野での今後の活躍を願っています。

ところで、鳥取大学大学院連合農学研究科（博士課程）では、1～2年に1回のペースで国際シンポジウムが開かれています。ここではフードシステム科学コースの教員が中心となって、シンポジウムを企画・運営してきました。このたび、小林先生が中心となり、第1回～第5回のシンポジウム報告を掲載した著書『WTO体制下における東アジア農業の現局面』が今年10月に農林統計出版より発行されました。今回の著書出版を契機として、今後、このシンポジウムはさらに発展していくものと思います。

最後に、現在の教育研究分野体制は、昨年度と同様、つぎの通りです。

農業経営学分野	教授	小林 一
ファームシステム学分野	教授	佐藤俊夫
会計・経営システム学分野	教授	古塚秀夫
食環境経済分析学分野	教授	能美 誠
消費者行動学分野	教授	松田敏信
農業経営管理学分野	准教授	松村一善
流通情報解析学分野	准教授	万 里
食・農・環境の法社会学分野	助教	片野洋平
	(能美 誠・B昭55年卒)	

国際乾燥地科学

同窓生の皆様におかれましては、益々、お元気で活躍中のこととお喜び申し上げます。本コースにおいても、平成21年3月に初めて18名の卒業生を送りました。昨年度末は保護者の方もお招きし、コースとして最初の卒業論文発表会を行い、卒業生は緊張した面持ちで、一年半取り組んだ卒業論文の成果を発表しました。

現在の在学生は、学部2年生28名、3年生29名、4年生31名、大学院修士課程1年生11名となり、コース体制も充実しつつあります。4年生は卒業論文、就職活動などに取り組み、充実した貴重な学生生活最後の年を、それぞれ送っています。また、2年生においては「乾燥地農学実習」、3年生においては「海外実践カリキュラム」、修士学生においては「インターナショナル・トレーニング・プログラム」などの海外で学ぶ機会に接する学生も多く、それぞれの学生が日々、勉強や研究に励んでいます。

コースのスタッフも、メキシコ、中国、モンゴル、タイ、カタルなど、いろいろな地域へ出かけ、研究活動を精力的に行っています。時には学生とも一緒に出かけ、教育活動にも励んでいます。また、今年4月より山本定博教授（C昭58年卒）が副学部長（総務担当）に就任され、益々、ご多忙な日々を送っておられます。

今後とも、益々、充実したコース体制を築き上げるべく、同窓の皆様のお力添えをお願いしたいと思います。何卒よろしくお願い致します。

（遠藤常嘉・N平4年卒）

獣医学科

獣医学科の近況をご報告致します。

獣医学科長には菱沼 貢教授がご再任され、獣医学科運営に多忙な日々を過ごしておられます。学科内における人事異動では、平成21年3月31日付で獣医薬理学教育研究分野の佐藤宏教授が定年退職され、後任として太田利男教授がご着任されました。平成21年8月14日付で獣医繁殖学教育研究分野の永野昌志准教授が北海道大学へご転出されました。本学獣医学科は益々教育体制が充実し、現在18教育研究分

野が設置され、32名の教員が教育研究に携わっています。平成21年度には35名の新入生を迎え、現在、226名の学生が真摯に勉学に励んでいます。

動物病院の改修工事は順調に進行しており、臨床獣医学の教育・研究の益々の充実と最新の獣医療の実施が図られています。また、鳥由来人獣共通感染症疫学研究センターは本年で設置5年目を迎え、鳥インフルエンザをはじめとする人獣共通感染症の対策に国内外の研究機関・行政機関と連携しつつ活発に取り組んでいます。

文部科学省の「大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラム」に「獣医・動物医科学系教育コンソーシアムによる社会の安全・安心に貢献する人材の育成」が採択されました（代表校：鳥取大学、連携校：岐阜大学・京都産業大学）。本プロジェクトでは、人獣共通感染症等の社会不安を解消する能力を有する高度職業人の養成を目的とし、3大学が連携して社会の安全・安心に貢献しうる新しい教育体系を展開することになります。

今後も新しい教育研究分野の設置など獣医学科のさらなる充実化が計画されています。今後とも同窓会の皆様方のご支援とご協力を賜りますよう何卒よろしくお願い申し上げます。

（杉山晶彦・V平8年卒）

附属フィールドサイエンスセンター

フィールドサイエンスセンターの近況をお知らせいたします。

H20年度までセンター長を務められた田村教授が生物資源環境学科に移られました。その後を受けて山名がセンター長を仰せつかり、普及企画部門：山口武視教授（作物管理学、A昭58年卒、部門長）、山名伸樹教授（生物生産機械学、E昭46年卒）、生産部門：中田昇教授（栽培技術学、A昭49年卒、部門長）、森林部門：日置佳之教授（生態工学、部門長）、佐野淳之教授（森林生態系管理学）の3部門5名の教員と11名の技術職員でH21年度がスタートしました。そして10月には近藤謙介講師（施設園芸学、A平10年卒）が着任され、11月末現在で教員と技術職員とをあわせて17名で、生物資源環境学科の実習や蒜山の森を中心にした環境共生学実習などの

授業・実習に加えて、全学対象のフィールドサイエンス入門、地域の子供達を対象にしたアグリスクールや森林教室の実施など、農地や森林を活用した教育、研究、地域貢献にと、さらにセンターが担う情報発信基地の機能を一層高めるべく取り組んでいます。フィールドサイエンスセンターをベースにして、夢のある食料生産、環境保全への提案を進めたいと頑張っているところです。

長年待ち望んでいたセンター本館の改修が、今冬実施されます（会報が発行される頃はその真っ最中かと思います）。桜と共に新しい本館での業務へと移ります。次号の会報では改装されたセンター本館からのトピックスを報告させていただくこととなります。今後ともよろしくご支援賜りますよう、お願いいたします。

(山名伸樹・E昭46年卒)

附属菌類きのご遺伝資源研究センター

同窓会員のみなさまにおかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。菌類きのご遺伝資源研究センターの近況について報告させていただきます。

センターの構成員ですが、菌類きのご環境生態学研究部門は、前川二郎教授（A昭53年卒）・児玉基一朗教授（兼務）の2名、菌類きのご分子遺伝学研究部門は、會見忠則教授（兼務）・作野えみ助教（兼務、N平成10年卒）の2名、菌類きのご遺伝資源評価保存研究部門は、岩瀬剛二教授・須原弘登講師の2名、菌類きのご機能開発研究部門は、松本晃幸教授（C昭52年卒）・霜村典宏准教授（A昭62年卒）の4部門8教員でありました。本年度スタッフの移動や増員があり、昨年4月に菌類きのご分子遺伝学部門の作野えみ助教の後任として、石原亨准教授（兼務）を迎えております。また、10月には、菌類きのご生態学研究部門に、大和政秀助教、さらには、菌類きのご遺伝資源評価保存研究部門に、白水貴助教の新たな2名を迎え入れ、スタッフ合計10名体制で活動しています。

センターは設立5年目を迎えています。センター教員の研究室所属学生数も増大し菌類きのごに対する学生の関心が高くなってきていると感じてお

ります。また、文部科学省が実施しているグローバルCOEプログラムの拠点として採択されたこともあって、現在では国内のみならず海外からも着目されるセンターになっていると思います。今後、世界をリードする教育・研究拠点を目指して頑張っていきたいと思いますので、今後とも農学部同窓生の皆様方のご支援とご協力をお願い申し上げます。

(霜村典宏・A昭62年卒)

附属動物病院

本学の動物病院は、年次計画的な臨床系教育研究分野の新設と必要装置の導入、さらに動物病院施設の拡充と近代化を計画しておりましたが、この度、大学の理解により実に約40年ぶりに動物病院の増築および現病院の全面的改修を行うことになり、施設も(仮称)農学部附属動物医療センターとして新たに生まれ変わります。第1期工事の増築(320m²)は、本年度5月末にすでに終了し、現在は旧病院(1430m²)を改修中です。第2期工事の改修は10月末に終え、さらに第3期工事の改修を平成22年3月末で終了する予定で、平成22年4月からは新病院での診療を開始する予定です。施設設備は、既設施設に加えられた新規の診療施設として、MRI室、内視鏡検査・レーザー治療室、免疫療法室、超音波検査室、電気生理検査室、眼科検査治療室、ICU集中管理室、面談室などを設置し、さらに手術室、診察室、レントゲン室が充実されます。小動物診療部門の拡充が主となりますが、すでに大動物診療施設や臨床検査実習室も整備されました。

病院診療担当教員は、11月現在、獣医内科学の日笠喜朗教授、松鷲 彩准教授、獣医外科学の南 三郎教授、獣医神経病・腫瘍学の岡本芳晴教授、辻野久美子講師、獣医繁殖学の菱沼 貢教授、臨床検査学の竹内 崇教授、杉山晶彦助教、獣医画像診断学の今川智敬准教授 柄 武志助教、獣医薬物治療学の西飯直仁講師の11名です。今後はさらに教員を増員する予定で、これまで以上に、より専門的な医療を展開します。

本増改築に際しまして、この度、MRIを含め最新鋭の設備の充実を図る目的で、獣医学科同窓生を中心として、各方面に募金活動を行いましたところ、

10月21日現在、740件、19,764,008円の浄財を提供いただきました。ご寄付を頂きました同窓生の皆様方には心より御礼申し上げます。目標額は3,000万円で、募金は新病院が完成するまで随時受け付けておりますので、引き続きご支援を賜りますよう、宜しくお願いします。尚、ご寄付のご案内を動物病院ホームページにも掲載しております。

動物病院としましては、病院施設の拡充と近代化により、学生教育の充実は勿論のこと、地域開業獣医師との連携と高度な診療情報提供サービスを推進させ、本学部の地域社会に対する貢献を一層強化するのが目的です。今後とも農学部同窓生の皆様方のご支援、ご鞭撻を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。
(動物病院長 日笠喜朗)

附属鳥由来人獣共通感染症疫学研究センター

文部科学省の5ヶ年時限付特別教育研究経費により、本学に設立された鳥由来人獣共通感染症疫学研究センターは今年、その最終年度を迎えることとなりました。昨年も2月に愛知県の養鶏場でH7N6の高病原性鳥インフルエンザの流行が報告されたのに続いて、4月にはメキシコの豚に由来するH1N1の新型ウイルスが瞬く間に世界中に広がるなど、感染症を巡る国内外の状況はめまぐるしく変化しております。当センターもそれらを受けて、愛知県の流行では感染経路究明やウズラの病原性試験を実施し、また新型インフルエンザに対しても、広く一般市民や産業界への助言・指導など、活発に活動を続けて参りました。環境省の全国野鳥サーベイランスにも引き続き協力し、文部科学省の海外拠点形成プロジェクトにおきましても長崎大学、京都産業大学とともにベトナムにおける共同調査を継続しております。この5年間の活動を経て、本病に対する国内の危機管理体制はほぼ確立することが出来たと考えております。しかし、周辺諸国に今尚、感染源が存在する限り、我が国はウイルスの国内侵入に対する警戒を緩める訳には行きません。そこで本センターは次年度以降、新たな目標として「アジア地域にお

ける国際共同防疫体制の確立」を掲げ、鳥由来人獣共通感染症の制圧に向けたさらなる研究調査を実施して行く計画であります。引き続き同窓会員の皆様のご支援・ご協力を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

(センター長 伊藤壽啓)

乾燥地研究センター

同窓会の皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。乾燥地研究センターの近況についてご報告させていただきます。現在、本センターの教員は、気候・水資源部門の篠田雅人教授、安養寺久男教授、木村玲二准教授（M平8年修了）、安田裕准教授、生物生産部門の恒川篤史教授（センター長）、坪充准教授、安萍准教授（D平14年修了）、辻涉助教（D平17年修了）、伊藤健彦助教、井上知恵助教、緑化保全部門の井上光弘教授、山中典和教授（昇任）、谷口武士助教（新任）、社会経済部門の安藤孝之准教授、保健・医学部門の大谷眞二特任教授で構成されています。

施設設備に関しては、平成21年4月に大型人工気象室である乾燥地環境再現実験装置（亜熱帯・冷涼帯砂漠シミュレーター）5基が導入され、さらに現在、インターナショナルアリドラボが建設中（平成22年6月竣工予定）など、研究環境が一層充実してきております。また、平成19年から実施中のグローバルCOEプログラム「乾燥地科学拠点の世界展開」では、ICARDA（国際乾燥地農業研究センター、シリア）およびDRI（砂漠研究所、アメリカ）と連携して、研究、人材育成および世界学術ネットワーク形成を推進しています。さらに、中国科学院水土保持研究所との拠点大学交流事業は第2段階の4年目を迎え、共同研究・人材交流が進んでおります。両事業とも、農学部等の先生方と協力しつつ、本センター教職員一丸となって乾燥地研究に取り組んでおります。今後とも、同窓会の皆様のご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

(井上知恵・D平16年修了)

ニューフェイス

生命・食機能化学コース

●石原 亨

平成21年4月より天然物化学分野を准教授として担当しています。

これまで、京都大学農学部で教育・研究を行ってまいりました。専門は植物の二次代謝です。植物は様々な二次代謝産物を含んでいますが、多くの場合その役割はよくわかっていません。これを植物と環境との関わり合いの中から解き明かしたいと考えています。今後は、多くの先生方や学生のみなさんと触れ合いながら研究を進めて行ければと思います。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

獣医薬理学教育研究分野

●太田 利男

平成21年4月1日から獣医薬理学教室を担当しています。主な研究テーマは、興奮性細胞のイオンチャネル解析や薬物・内因性活性分子による機能調節機構の解析です。現在はこれらの基礎的研究に加え、病態発生のメカニズムやその治療薬の作用、特に痛みのメカニズムに関する応用的研究にも着手しています。

これまでの経験を生かしつつ教育・研究に力を注ぎ、本学の発展に貢献して参りたいと存じます。今後とも同窓会の皆様から、より一層のご指導とご鞭撻をお願ひ致します。

附属フィールドサイエンスセンター

●近藤 謙介

平成21年10月1日付で農学部附属フィールドサイエンスセンター生物生産部門に着任しました近藤謙介です。平成17年3月に鳥取大学大学院連合農学研究科で学位取得後、乾燥地研究センター研究機関研究員、熊本県立大学環境共生学部嘱託助手、石川県立大学生物資源環境学部助教を経て、4年半ぶりに教員として鳥取大学へ戻ってきました。熊本県および石川県在住中は、特に九州・北陸各支部の諸先輩

方にお世話になりました。この場をお借りして深謝いたします。母校、鳥取大学でこれまでの経験を生かし、教育・研究に励みたいと考えています。今後ともご指導、ご鞭撻のほど、お願ひいたします。

菌類きのご遺伝資源研究センター

●白水 貴

白水と書いて「しろうず」と読みます。今年の10月から菌類きのご遺伝資源研究センターに助教として着任しました。

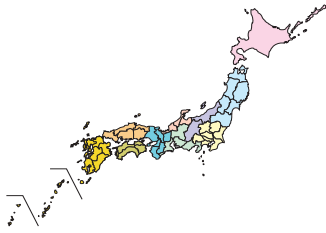
2008年に筑波大学で学位を取得後、同大学博士特別研究員、鳥取大学GCOEプロジェクト研究員を経て現在に至ります。菌類(キノコやカビ)の多様性や生態、進化に興味を持って研究を続けてきました。研究以外では三線、太鼓、温泉巡り、映画鑑賞などをよくします。冬はスノーボードです。最近、サーフィンと水墨画を始めました。よろしくお願ひいたします。合掌。

●大和 政秀

3月末に15年間勤務した民間会社を退職し、鳥取大学で半年間GCOEプロジェクト研究員としてお世話になった後、平成21年10月付で附属菌類きのご遺伝資源研究センター助教として着任いたしました。菌根に関する研究を専門分野としており、菌根菌の同定による希少植物の生活史の解明、高塩濃度環境における菌根菌の分布と役割などについて研究しています。菌根研究は菌学、植物学、土壌学などが関わる複合領域ですので、関連領域の皆様のご指導をいただきながら研究を進めていきたいと考えております。よろしくお願ひいたします。



支部だより



静岡県支部

永井 正（A昭50年卒）

平成21年1月10日（土）静岡県支部総会が、本部から来賓として田邊賢二副会長（園芸学教授）をお招きして開催されました。今回は農学科が担当であり、田邊教授には21年度末に定年を迎えられることもありましたので、本部には無理をお願いし、昨年引き続き御出席をいただきました。

ここ数年、会場としています静岡駅北の「マイホテル竜宮」において、21人の参加者により開会し、花村悦男支部長（V昭43年卒）の挨拶、会計報告の後、田邊教授から母校の学科・コースの変遷、施設・設備の充実、研究活動等の実績について近況報告をいただきました。

支部長からは会の運営について、開催時期・時間・会費等のアイデアを募るなどのお話があり、さらに出席者を増やし会員の交流を深められる方策を検討していくことを全員で確認いたしました。

総会後の懇親会では、望月聖己氏（N平12年卒）の乾杯に始まり、恒例の近況報告（どうしても長い話になるため、時間制限付き）や懐かしい昔話に、本部からいただいた銘酒「強力」の勢いが加わり、一段と盛り上がった楽しいひと時を過ごすことができました。

懇親会の締めは、次回幹事である農芸化学科の頼もしい挨拶と再会を期して「貝殻節」を歌い閉会となりました。しかし、田邊教授が静岡に宿泊されることから、さらに勢いが増し、ほとんどの参加者が先生とともに二次席に向かい、大いに氣勢を上げたところでした。本当に、ご苦労様でした。静岡県支部会員の皆様のご参加をお待ちしております。

最後になりましたが、鳥取大学農学部同窓会のますますのご発展をお祈りするとともにご支援をいた

だきましたことに対しお礼を申し上げます。



熊本支部

池田 元吉（F昭55年卒）

平成21年6月27日（土）、熊本城の天守閣を近くに仰ぎ見るKKRホテル熊本で総会が開催されました。参加者20名。参加数に大きな変化はなく、約60名の支部会員数からすると高い出席率が続いています。顔なじみの方が多いのですが、最近は若い方の参加もあり、先輩達の楽しみになっているように感じます。あー、私もその中の1人ですね！

今総会では役員改選があり、若い者へバトンタッチするとの考えで、支部長は森尾由成氏（A昭53年卒）から、若干若い池田（F昭55年卒）へとなりました。

今回、本部からは附属菌類きの遺伝資源研究センターの松本晃幸先生が地酒「強力：鳥取大学ラベル」を携え来熊され、法人化後の大学の近況をお知らせ頂きました。本来の学生教育の充実に加え、地元貢献やグローバルCOEのことなど、鳥大農学部は元気だなと感心しましたし、参加者も元気付けられたように思います。

ところで、支部総会が毎年6月にKKRホテル熊本で開催されるようになり10年近くになります。総会での活動報告等が終わり、同じ部屋で開く懇親会の準備が整うまでの間に、集合写真を撮るのが恒例です。今回は庭に出て天守閣を背景の一枚です。懇親会では、池田剛志氏（C昭42年卒）のマンダリン演奏が披露され、次回総会での演奏も約束され楽しみが増えました。

ちなみに、次期総会も同じ場所で平成22年6月26日(土)午後3時からに決まり予約済みです。支部会員のより多くの参加と、偶然または計画的に熊本に居られる同窓生の参加をお待ちしています。

関東支部

森田利夫 (A昭41年卒)

関東同窓会の平成21年度総会及び懇親会は、6月26日(金)の18時30分から東京都千代田区霞ヶ関の法曹会館において開催され、会員38名が出席しました。

総会では、本部から獣医学科教授の南先生をお迎えし、わざわざ作っていただいた資料等により大学の最近の様子を伺いました。その後、20年度事業及び会計報告、役員一部改選等を手早く片付け、記念写真撮影から懇親会へと移り、20時30分まで楽しい語らいの場を持つことができました。

特に今年は本部にご配慮をいただき、総会案内で予め南先生がお見えになることを知らせることができましたので、獣医学卒業生の出席が多く、最近にない盛会となりました。

役員は、会長：森田利夫 (A昭41年卒)、副会長：山根康義 (V昭34年卒)、厨子進 (C昭42年卒)、横井茂 (F昭47年卒)、宮本直彦 (E昭58年卒、新任)、佐藤紳 (M平4修了)、幹事：柱真昭 (A平2年卒、新任)、小倉茂 (N平6年卒)、佐宗等征 (N平6年卒、新任)、白神康範 (N9年卒、新任)の10名です。

また、今年から6月最終の金曜夕方と土曜昼間のコウゴ開催となりましたので、来年は6月26日(土)の昼間に決まっています。特に夕方では出席しにくい高齢・遠距離会員の参加を期待しています。



和歌山県支部

坂部弘次 (E昭42年卒)
(片山)

和歌山県支部同窓会総会は平成12年8月に開かれて以来、御無沙汰でしたが正木支部長 (E年28年卒)の音頭により9年ぶりに7月4日(土)午後3時から和歌山市内のレストランフロラリア (県民文化会館6F)で開催することとしました。

しかし9年間の空白は大きく支部同窓会の名簿の整備から始まりました。昨年に発行された農学部同窓会名簿を大いに利用させていただき、約130名の方に案内状を出させていただきました。最終的に県内在住者100名の確認をして支部同窓会名簿を作成出来ました。

さて、9年ぶりにもかかわらず、総会には同窓生31名の参加があり、その中で若い平成の卒業生が8名を占めて支部同窓会としては心強く感じられました。

来賓として本部から南三郎教授 (V昭45年卒)にご参加いただき、「独立法人鳥取大学」の近況とこれからの方針等のご説明があり、我々昭和の卒業生の時代からの大きな変革に隔世を感じました。

議事に入り役員改選で支部長は宮本忠氏 (農業経営学科37年卒)が選出され、9年の間に残念ながら逝去された13名の物故者に黙祷をささげ、会計報告等もほどほどにして懇親会へと進みました。

懇親会では同窓会からお土産としていただいた銘酒「強力」を全員が手に、今回の出席者で一番若い西川健太郎氏 (生存環境学コース20年卒)の「乾杯」の発声により懇親会に入り久方ぶりの再会のため予定時間を大きく超えて話が弾み楽しい一時を過ごし、2年後の再会を約してお開きとなりました。



山口支部

中谷 美里（A平14年卒）

山口県支部では、平成21年8月22日（土）に山口市小郡の山口グランドホテルにおいて、平成21年度の総会を開催し、来賓の南三郎先生（V昭45年卒）をはじめ総勢40名の方に出席をいただきました。

まず、総会では議事に先立ち、同窓会本部から来賓としてお迎えしました南三郎先生から、鳥取大学の組織や最近の情勢についてお話をいただきました。また議事では、役員の変更を行い、山邊勝会長（A昭47年卒）、羽鳥誠一副会長（V昭49年卒）に代わって、羽鳥会長、兼行義明副会長（C農芸化学昭49年卒）が満場一致で選出されました。

引き続き開催された懇親会では、始めに堀眞雄先輩（A昭23年卒）から、執筆された本についてご紹介をいただき、その後、栗屋芳信先輩（A昭24年卒）の音頭で、南三郎先生からいただいた鳥取大学のお酒「強力」で乾杯をして、盛大に懇親会がはじまりました。併せて田布施農業高等学校校長の古川博之先輩（E昭51年卒）から生徒の作った「蒼々」というお酒のご紹介をいただき、出席されたみなさんに振る舞われました。

その後、女性陣4名と新しく入会された村田風凧子さん（V平20年卒）、三戸一正さん（A平17年卒）が近況報告を行いました。西岡先輩（A平12年卒）は今年7月にご結婚されたということで、馴れ初め

についてお話をいただきました。また、新たに加わられた若い二人には、諸先輩方からありがたいアドバイスをいただきました。

懇親会の最後の締めは、栗屋芳信先輩の音頭によります「鳥取高等農林専門学校校歌」の大合唱を行いました。またその後、恒例となりました栗屋流三三七拍子が始まり、伝統となっている鉢巻き姿を今年も拝見することができました。

最後に、案野一夫先輩（V昭38年卒）の中締めによりお開きとなりましたが、大変盛り上がった支部同窓会となりました。

今回、事務局を引き受けての初めての総会・懇親会でしたが、山邊勝先輩をはじめ、諸先輩方の御協力を得ながら無事に終えることができました。来年はもっと多くの方に来ていただけるよう事務局として頑張っていきたいと思いますので今後ともよろしく願いいたします。



クラス会だより

田川 恵 富（V昭59年卒）



3年ぶりのクラス同窓会が平成21年9月20、21日に香川県の「こんぴらさん」のふもとの温泉地でありました。ご存知、海の神様と長い階段で有名なこんぴらさんは、古くから全国から参拝する人を集めています。

その地に北は茨城県から南は沖縄県までの11名がかけてくれました。内2名は女性です。久しぶりに会えども昔の友、すぐに打ち解けて談笑が始まり、酒が入るとさらに砕けて、宴会はどんどん盛り上がっていきました。二次会はさながら当時の湖山を彷彿させる盛り上がり様でした。時間のたつのも忘れて昔に戻った気持ちで久しぶりに愉快的な気持ち

になれました。

我々の年代は公私共に忙しい時期です。社会では中間管理職であり家庭では子育てを初めとして大変お金もかかる時です。女性は家庭の中心であり、かつ、仕事にも全力で取り組んでいますし、男性も各々の組織で責任ある立場を任せられ獣医師としての責務を果たしています。そんな時、古きよき友に会

うことで緊張していた精神状態が少しでも休まり、リフレッシュできた事は本当に素晴らしい事でした。翌日はこんぴらさんにお参りする者、直ちに帰る者、次回の再会を祈念して同窓会をお開きとしました。皆さん、ありがとうございました、そして、お疲れ様でした。

西尾会長を偲んで



去る8月18日午前5時西尾迢富同窓会長が肺がんのため、享年82才で御逝去されました。

正月過ぎに入院され、手術後ご自宅で静養されていましたがその後7月

と8月に再入院、ついに帰らぬ人となりました。私は7月末頃2回目のお見舞に伺ったときは、かなり衰弱しておられまいしたが、お元気でいろいろとお話をして帰り、訃報を聞いた時は俄には信じ難いものがありました。

葬儀は読経のなか焼香の列は700人を越え、あらためて生前の幅広い後活躍を伺い知ることとなりました。

西尾会長は鳥取一中から海軍兵学校に進まれましたが終戦、復員後鳥取農林専門学校農芸化学科を昭和22年に卒業され、昭和25年から昭和61年まで鳥取県に奉職、この間、民生部長、農林水産部長を歴任、鳥取県の発展に大きく寄与されました。更に昭和62年から平成2年まで鳥取市助役、そして平成2年市長選に立候補され、見事当選されました。以来3期12年間にわたり、鳥取市の発展と市民福祉の向上のため一身を捧げられました。その後も鳥取県農業共済組合連合会長として、地域農業の振興に努力されたところでもあります。

平成16年5月の同窓会総会において、林眞二前会

長の後を受け会長に就任され、早速会費の終身会費制や、新入学生の会費納入制等の充実を図ると共に、新同窓会名簿の発行について個人情報の悪用の恐れのあるなか、同窓会名簿は同窓生の情報交換など、同窓会の根幹をなすものと、慎重に検討され平成10年以来10年振りに発刊されました。

また農学部の前身である旧高農校舎について、歴史的な建造物であるという認識から校舎の保存等を従来から検討されていましたが、今日、三洋電機とパナソニックの合併が決まり校舎保存について三洋電機に保存の確認に足を運ばれるなどされたところですが、此度これを機会に旧校舎記録映像(DVD)を作成すると共に、旧校舎講堂の玄関及び初代校長の山田玄太郎先生の胸像を農学部中庭に修理移設を計画されるなど、会長就任以来5年間に残された御功績は、本同窓会の発展に大きく寄与されました。

私は会長が県農政課長時代から御指導を戴いていますが、何時も冷静に的確な判断を下しておられました。今回突如として御逝去なされた事は、誠に痛恨の極みと云うほかなく、その御功績に農学部同窓会として改めて感謝申し上げ、謹んで御冥福をお祈り申し上げます。

合掌

平成21年12月

農学部同窓会会長代行 朝倉 晋

在学生の皆様へ

農学部同窓会 学内副会長

南 三 郎（V昭45年卒）

今年11月20日に、鳥取大学60周年記念行事が挙行されました。農学部は、その前身であります鳥取農業高等学校（1920年（大正9年）11月創設）から起算いたしますと今年で89年目を迎えることとなります。農学部同窓会は1927年（昭和2年）7月に設立され今年で82周年を迎え、まさに歴史と伝統のある同窓会です。

会員数は1万7千名を越え、全国、さらには世界で多くの先輩達が活躍されています。あなた方後輩としては、社会に出てゆくときに、これらの優秀な先輩方を利用しないでおくのは、まさに宝の持ち腐れであります。情報が必要な時はいつでも事務局（1号館、4階北西棟）を尋ねてください。可能な限りの情報を提供いたします。

事務局だより

同窓会会員の皆様には元気でご活躍のことと存じます。

農学部改装工事も終わり、ようやく透明な檻？（ガラス張り）の生活にもなれて来ました。

今年の鳥取の雪は、いまのところ浜雪。山奥から這い出てくる私ですが、朝、今日は楽勝！と思いつつながら家を出て、大学近く、そこの通りを曲がるとなんと湖山は雪国!! あ～長靴履いてくるんだった…。

現在、高農校舎DVD完成を目指し、作業を進めておりますが、このDVDには亡き西尾会長の熱い思いが込められております。

「北嶋クン、デートしようや！」と何回か吉方の校舎を見に行きました。「ここには があつただで」「ここで何々しただけえ」とセピア色の校舎を眺めながら、懐かしそうにおっしゃっておられました。時には戦争の話も（もちろん、戦後ずーいぶん経って生を受けた私です）。「矛盾に対して抵抗も批判も許されず、襲い掛かってくるものをただひたすらに乗り越えていく日々の中、ここで過ごした時間は人生での土台となった。」と。

「この校舎がなくなってしまうかもしれないで…」

在学生の皆様は、入学時に既に終身会員の手続きをしていただいておりますので、卒業と同時に同窓会活動に参加していただけます。卒業式の後に関われますニューオータニでの祝賀会の経費は同窓会と後援会（いわゆるPTA）が負担し、同窓会長と後援会長が出席してお祝いしております。

同窓会活動の主な活動は2年に1度の総会、全国30県に設置されています支部への援助、会報の発刊であります。卒業後各県の支部総会に出席される新卒者は極めて少ない現状です。就職が決まりましたら、同窓会事務局を尋ねてください。就職先の支部の連絡先をお教えいたします。特に見知らぬ土地に就職する場合は、先輩との交流ほどありがたいものではありません。ほぼ100年の歴史を持つ鳥取大学農学部を卒業したというプライドを持って、各界で活躍されることを望んでいます。そのためにも同窓会を利用してください。

とつぶやかれた西尾会長の少ししゃがれた声も耳の奥に残っています。

本当は高農校舎を湖山キャンパスにどかーんと!!これが西尾会長の壮大な構想でしたが、想像を絶する工事費用を目の当たりにし「いやあ、固まったわいな」とため息。規模は小さくなりましたが、未来へつなぐ我らの財産をきちんと伝えるためのDVD製作をと思っております。

「人の世話をするのは大変だろう。出来て当り前、ミスれば5倍にも10倍にもなって返ってくる。理不尽なことだらけ、無理が道理になることだである。それを受け止め、必死にもがくと色々わかってくる。そして、経験が人を育てる。」大変な立場で数々の仕事をしてこられた会長ならではのお話もう聞くことは出来ません。

いつも気さくに優しく声をかけてくださった西尾会長の急逝。7月1日いつものように「北嶋クン、ありがとさん」「会長 お気を付けて」これが最後の会話となりました。心よりご冥福をお祈り申し上げます。

同窓会事務局 北嶋邦恵